

# 8月のささやまっこだより

令和5年8月1日  
篠山保育園  
園長 足立善一郎



## 暑中お見舞い 申し上げます

園庭のあちこちからセミの鳴き声が響き渡ってきます。子ども目線で考えると「セミが鳴いて居場所を教えてください。居ても立っても居られない。早く捕まえなくちゃ!」と毎日思っていることでしょう。虫が好きな子どもたちにとっては、数カ月の間「セミのとりこ」になってしまいます。春先は地面に顔をむけてダンゴ虫一色でしたが、今は顔を上にむけセミー色です。



## どろんこあそび

水と砂を思う存分使ったのどろんこあそび。‘服の汚れを気にせず思いっきりあそんじゃえ!’ プール遊びの時もそうでしたが、解放感いっぱいです。水を運んでくる子、川やトンネルをつくる子の目つきが違います。「心がゆさぶられている!」ということを見ていて感じます。そして友だちと声をかけ合い目標(川をつくって、水を流す)に向かって突き進んでいきます。それが達成できるとまた、新しい目標を定めて遊びが発展していきます。創造力が豊かですよ。砂遊びの途中からは準備していたシャワーから水がでてきます。ちょっと体を冷やして更にパワーアップ。砂の感触を十分に味わっているようでした。



## おいしいカレーができたよ! (ばら組おとまり会)

7月15、16日、ばら組さんのおとまり会がありました。数週間前から計画を立て、楽しみにしていることがひしひしと伝わってきました。保護者の皆さんにとってもわが子と一日離れて過ごすという一大行事でもあったようです。おとまり会は、「自分のことは自分でする」、そして「なんでもできるんだ」という力を確認してもらう行事でもあります。当日は、天候にも恵まれ計画通りに進めることができました。夕食のカレーも自分たちで調理。“包丁”や“ピーラー”の使い方を給食の職員に教えてもらい、調理が始まりました。包丁使いが上手な子もいて、聞いてみると「家で料理をしている」とのことでした。夜は、“キャンプファイヤー”。山の女神が登場し、火を灯してくれました。最後は、職員による花火大会、そして就寝。大好きな仲間と一緒に、なんでも乗り越えられる「気持ち」を強く感じたのではないかと思います。次の日の朝、“泊まることができた”ことに誇らしげな子どもたちでした。



## 8月の行事予定表

- 18日(金) 避難訓練
- 19日(土) 園内研究会
- 25日(金) 誕生会  
プール遊び終了
- 21日…えいごであそぼう(ばら組)
- 28日…えいごであそぼう(ふじ組)

## 9月の行事予定表

- 9日(土) 園内研究会
- 20日(水) 避難訓練
- 26日(火) 誕生会
- 4日、25日…えいごであそぼう(ばら組)
- 11日…えいごであそぼう(ふじ組)

## 8月25日(木)をもってプールあそび終了

汗を流すためのシャワーは引き続きしていきますので、もも、ふじ、ばら組さんは、タオルをビニール袋に入れて毎日持たせてください。水着はいりません。(プールカードの記入をお願いします)。

すみれ、たんぼぼ、さくら組さんは沐浴をする日もありますので、沐浴の○・×は引き続きお願いします。



プールもいりけと  
お風呂もきもちいいよ!



## 「眠りは脳と心の栄養」

睡眠不足はどうしていけないの?

●疲れやすくなり、食欲や集中力が低下します。

眠っている間に、体は1日の疲れを修復しています。

●朝食を食べなくなってしまいます。

起きる時間がギリギリで食べられない…、眠い…、食欲がわからない…。

●感情コントロールが困難になります。

イライラしたり…昼間ボーッとしたり…。

●心身の成長を妨げます。

成長ホルモンは眠っている間に分泌されます。脳が成長しています。睡眠は人間にとって欠かせない重要な要素です。睡眠時間をしっかり確保して、活動のエネルギーにしましょう。

## 大人には「？」な子どもの行動にもワケがあります

舐めることで「ものを認知」しています。

ハイハイができるようになると、いろいろな所に移動できるので、好奇心も旺盛になります。見る物すべてが赤ちゃんにとっては新鮮でこれはなんだろう?と手に取って、真っ先に口に持って行きます。なぜなら、この時期の赤ちゃんにとって、口の中が一番大事な認知機能だからです。舌で舐めてザラザラした感触や冷たさ、温かさなど物を認知します。赤ちゃんは、舐めて確かめないと気がすまないのです。

舐めまわすことを十分にさせてあげましょう

子ども本来の好奇心や探索心を育てるためにも、「見て、さわって、舐める」という行為を十分にさせてあげましょう。

これはやがて、自分でつかんで口へ持っていき、食べることへの喜びにもつながっていきます。舐めることで、感覚機能も知能も育つのです。大人が配慮することは、誤飲事故を招くような、小さなボタンやクリップ、電池等危ない物などは、手の届くところには置かないようにすることです。

今井和子著「0才児から5才児行動の意味とその対応」